増山守正編輯

續東京名勝畫詞

上卷

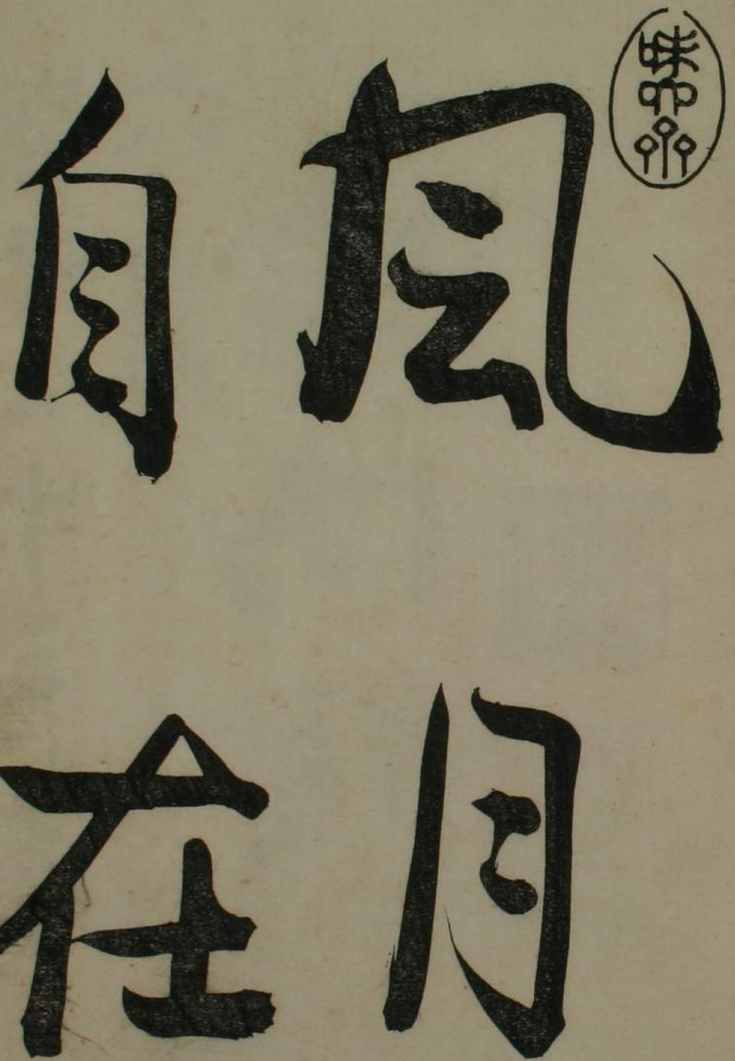
ル 4
1685
1

呂
1685
1-2

増山守正 編輯

續東京名勝畫詞 全冊

東京 靜香園藏



明治二十三年
六月
咸丙題

近時之著述。不論詩文書畫。其刻之。而行于世者。前編究精美。後編不及之。何則前者閲歳月之長。與用工夫之多。所以得精美也。後者閲歳月不長。用工夫亦少。故不及前編也。余謂湯盤銘。以日新為本。然以又新為重。

近時之著述得日新而不得又新皆違聖意也增山君守正東京名畫前編實為日新而頃者有後編之舉更得精美能得又新固不違聖意也君與余結交一年厚一年曾論所稱晏平仲久而敬之自在其中此編詩畫之精美既已有益于世況復具二條之聖意其有益于世豈比尋常詩畫卷哉余之喜而序之不亦宜乎又係以詩曰不啻詩奇畫亦妍大都收拾簡而便昔時沙子與圖繪不及此書前後編

維時明治二十三年庚寅仲夏東京枕山大沼厚書于下谷熙

熙堂中。此日。宿雨初晴。宛如畫
裏之景云。

自敘

天地滄桑之變。都城廢而爲荒野。高山崩而爲平地。古今興廢之異。黍離之歎。蕩板之戒。振古來昭昭可見者。皆由地誌之存矣。余夙有見於此。曩者編東京名勝詩集二編。次編東京名勝畫詞。以供於地誌之一端。今又編此書以補前書之闕。蓋欲傳當時勝地風景之秀美。以供中於後世地誌之考證也。明治二十

三年五月。丹波丹蓉增山守正。撰於東京駿臺鈴木街僑居。

續東京名勝畫詞

例言

一　此の書編輯の體裁一に前編の例に準ぜ

一　貴顯搢紳家姓名の傍に其爵位を掲載せざるハ專ら風雅を主とするを以てなり敢て恭敬の意を失ふにあらぜ

一　前編畫圖中墨色濃淡を別つ者あり印刷上頗る煩に堪ざるを以て此編ハ皆一色とせ

一　編中の文字編者固より校合に怠らぜと雖も猶遺漏あらんことを恐る覽者其の誤謬を示し賜ハば幸甚し〳〵

例言終

編者識

續東京名勝畫詞

目録

上巻

○宮城　○帝國大學　○博物館
○牛御蒔　○白鬚神社　○目白臺
○蒲田梅　○御行松　○護國寺
○白山神社　○傳通院　○洲崎神社
○梅若神社

下巻

○永代橋　○日暮里　○海晏寺
○回向院　○龍眼寺萩　○金刀比羅神社

○柳嶋妙見堂　○水天宮　○待乳山
○王子神社　○五百羅漢　○品川神社
○閻魔堂　○毘沙門堂　○鬼子母神
○吾妻森　○佃嶋　○新吉原

續東京名勝畫詞目録終

續東京名勝畫詞上巻

丹波　増山守正　編輯

宮城

大都風物共年新。又賀履端朝紫宸。紅旭巍然定昆鎮
現晴臨殿閣。蒼煙呈瑞罩松筠。千官盛服東発。國礎益
纏金縷。九陌高車輾鐵輪。曆日小寒猶未知磐石堅。瑞
到。醉懐先已似陽春。　東京　槙村龍山　氣氤氳溫四

大君の　御殿の　有り　おのつ　から

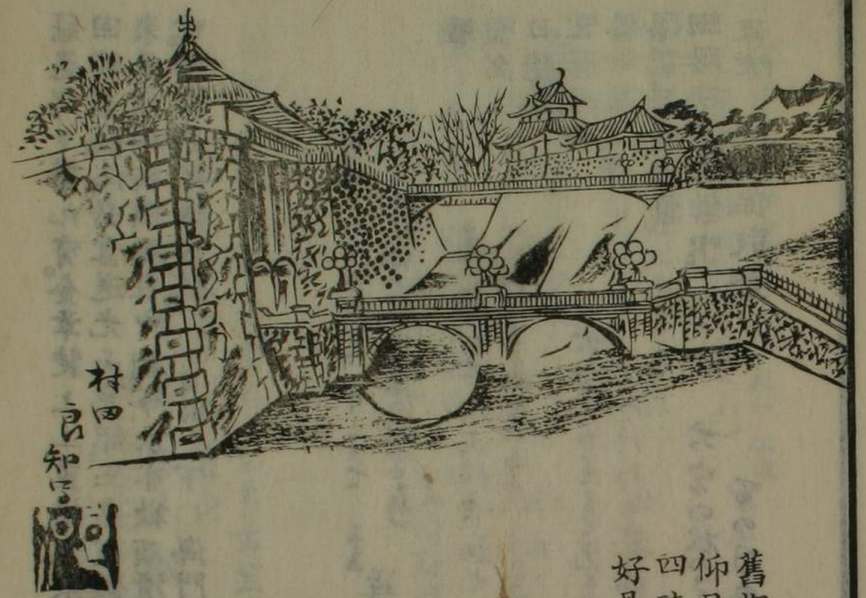
極。祥星爛燦照無邊。七章頌憲安黎眷。
三節表儀延衆賢。祝頌不溪揚盛德。悠悠寶祚億
斯年。　東京　伊藤橋菴

いや彩　きらきら照　ひたる　この那

かけそたたへの橋とせ屋八重　仝
雲こそたちあけぼの屋　井上正直

何したちの反呼舞りも雲とて　仝
大四山の春そ去岡き　本庄宗武

玉京　大田原一清



村田良知画

舊都南北二千秋。新闢京城東海州。
仰見叅山安寶鼎。俯知磐石固金甌。
四時蓮嶽雪呈色。百里瓊川水競流。
好是重々青樹裡。画甍堆處五雲稠。

長門　山縣適處

一簾に
夏の
封切る
牡丹
の郷
京橋

牡丹
木の陰
名月の
雫の
郷

東京
素石

宮城

倍海の波は
あらて春風
しらゝゝとの
あゝ名
二重橋子て
福羽美静

何こゝも
ちゝあて住けて
あきれ〳〵
往事
空井の
つゝのしらゝ
東京

葱々鬱々氣
佳哉。仰見宮
城喬木堆。憶
昨　聖君遷
御日。鳳車徐
駕六龍來。

東京
蒲生聚亭

玉地と共に
四方し
ゝらゝゝを

千世四の
御堀の
大宮原

橋原
田所千秋

こゝ國の人に榊の花をせて
ほゝゝゝ御代ゝゝたゝにけゝゝ郷

東京　三田葆光

冠冕群々攀九霄。金章裝上二重橋。池氷回暖鳧鷗浴。岳雪送光天地昭。玉帛威儀來萬國。璣衡機軸在中朝。布衣亦欲頌清世。擊壤康衢謳古謠。

周防 下 海門

初桜や門侍所の昼の月 東京 千畝

一木ゝゝ咲てゆるりと梅の花 仝 三条雄

松風はとゞまる船やちる霞 仝 青莪

天壌とともにちぎりて動かぬは是ぞ東の大宮所 東京 近藤芳樹

春風は大内山に吹初ていさら如里はあふしとそ思ふ 仝 平野勝

大宮はかもとくて見えさる国人わけ入る方や雨つあふらん 豊後 井上唯平

大宮の桜のさかりになりぬらん百の司の袖かをるなり 仝上

曈
曈出日照春宮。脈脈清香御苑風。飛落花呈豐兆雪。細腰柳舞五雲中。

東京 大久保敢齋

久方の雲井の空の高ければ月の光も照まさるらん 山城 宮本守紀

久方の雲井遥にほのきゝし月にきほひて鳴て渡るなり 仝上

赤根さす日の大宮は空高く地にきこえて渡る春風 仝上

出る日の本つ国なる大君のことし所ぞ常にかゞやく 大和 上司延絃

静かなる御代の恵や春霞 東京 鴻雲

宮様の煙のどかに引く霞 仝 満居

船もまぎれて向ふ牡丹の春 武蔵 良大

郡ならけ住のこむ霜の市 上野 乙駒

氷割るちからはありて春の風 東京 古笠

見んのかてに咲く牡丹花 仝上

一夢は都の花そ財多 仝 吾仙

布園生に大きう咲く牡丹花 仝 雲窓

宮様のゆるく挙えて都かな 仝上

[illegible]の年に[illegible]の年の初春　羽後　冷風　あやめ[illegible]の井の[illegible]　長門　春雨

[illegible]の[illegible]の[illegible]の月　仝上　九重や二重の橋に八重霞　武州　朴山

[illegible]車の[illegible]　桜臺　仝　清格　咲みちて[illegible]ぬき桜こう那　丹後　行雲

[illegible]　仝　蘭雨　静ふる人[illegible]の末の牡丹哉　仝上

旭の[illegible]に[illegible]　仝　月静　大内[illegible]風も[illegible]くと[illegible]橋の[illegible]　仝上

○

穆々宮城　蠱々宮城樓閣連百官升降服裝鮮松
日月新百官　頭鶴舞星千歳池面亀遊表萬年銃隊
勤務去來頻外　龍飛隨主後槍兵虎躍擁君前士民欽
夷順服普天下四　仰如歸市宛似衆星向斗邊　編者
海昇平率土濱鏡劔
光明王室德橘櫻花美
紫宸殿萬機如電通全國
政府中央別有神　編者

九重の帝圖に白小八重桜
豆屋類ふき花にも君哉　仝上

[illegible]に[illegible]の[illegible]　編者

名月の花や星霜の光の玉　仝上

花咲て[illegible]き宮居[illegible]　仝上

大内の[illegible]奥深し八重霞　仝上

鶴舞松梢旭日鮮。亀遊橋下霽虹懸。巍々宮殿横層
地。蠱々城樓聳九天。憲法發行邦典立。維新功業帝
名傳。綸言如汗士民服。皇統無窮千萬年。　編者

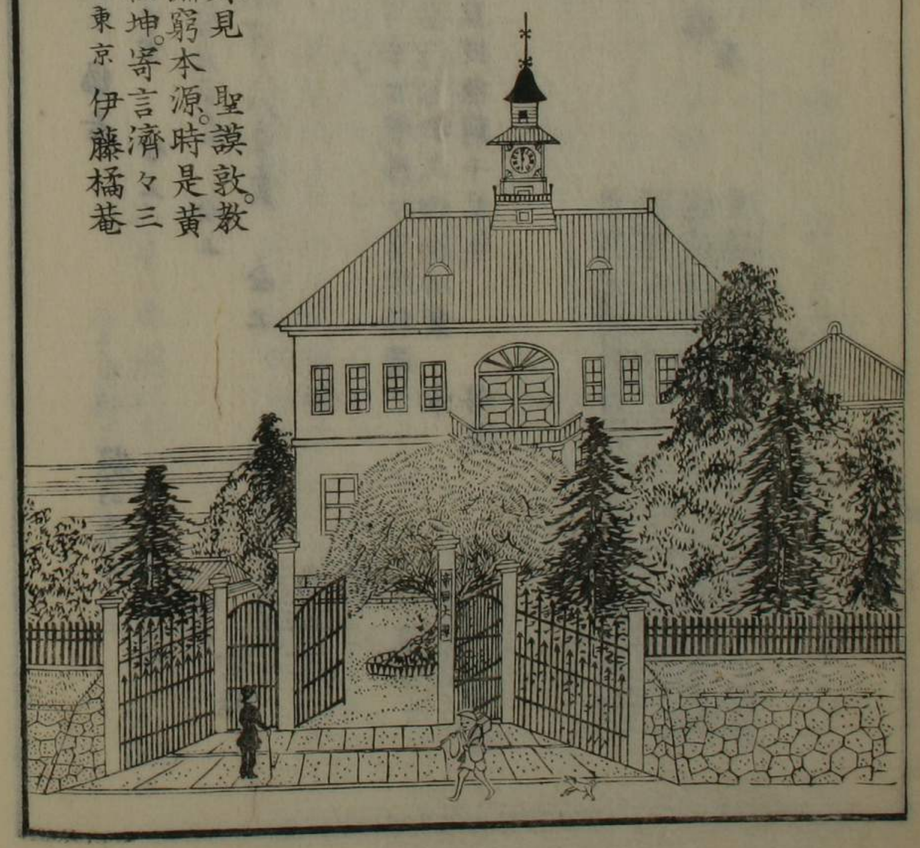
治まる[illegible]代に
旭のかゝやきて
大内山千　麓く吉風　編者

皇國威嚴掃虜塵。遥瞻八衆嶽容全。六
軍擁主昇平日。八佾舞庭三代天。漠々
深池飜碧浪。亭々高櫓聳晴烟。宮城別
有堪欽仰。皇統無量萬億年。　編者

帝國大學

東京 福羽美靜

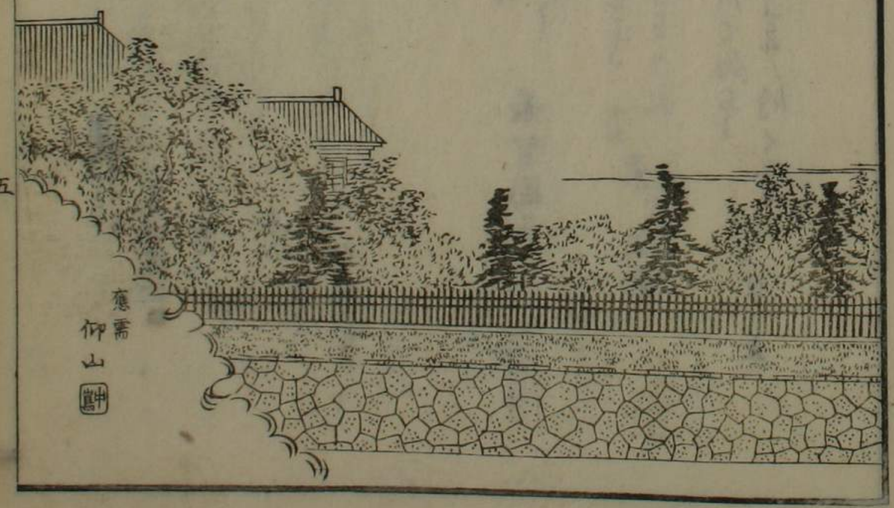
學政由來建大原。中興殊見　聖謨敦。教
該溥博排空理。道遡泉淵窮本源。時是黄
金應惜晷。誰其赤手克揺坤。寄言濟々三
千士。一點靈犀在報恩。　東京 伊藤橘菴



東京 市島仰山

苦學研精成業日。
豈誰不念立殊功。
此心終始宜無遺。
伸縮人生一己中。

東京 大久保敬齋



まれはらうとうきたてよ大君の　播磨　田所千秋
浦世いやゆかぬ如大和しま根に　山城　木村昇雨
塵却ふ春にもなれて梅の　本東　最賀園子
止まる雲行てゆら〻ん
里のゆもゆ道ゆ雪ゆ花ゆ　ふとの井の奥涼く　ま　て

高閣凌雲勢偉哉。濟々有種育英才。帝京三月春風遍。雨霽滿門桃李開。　長門　村田看雨

梅男ら世ふみのたゆけきい
千代の古石碑ゆ見ぬ山ふ　最賀園子
梅もたゝえにきてなけ東ふ　大和　東　友秋
うきき梅の枝を君をりに
梅の戸も今ゆ梅けて新ふ
梅ひのつに年ゆく梅　仝　上

奥沢き
ふとの木に
たつ松い
ゆの柱や
つくり
出らん　最賀園子

皇恵の文の林の文の茶に　山城　小村端敬
口ふらきゝん　客の梅
まなさに初うかりう清夢を
きて深く思む客の梅　仝　上
梅の嘶る夢もたのもき
梅ひの庭の白ひにまうて　仝　小河好優

我友と新む梅ひの
梅人に
春を待つ
さん　山城　澤井正恭

君ら代の
老りに
つきて
夢うく
文の林千
朱行く梅
山城　小河好優

さく桜の梢にてゝ小梅い
梅くゝる人の夢になれて　澤井正恭
畫をよむ春にゆふれて梅い
梅ひの窓にとく来てそ行く　仝　上
窓直くふれてそ朱行く梅い
梅ひし人に春をつくらん　仝　上

四五人を夢の夢とや杜字 [illegible] 素丸　耳かゆき鶯や鼠て時雨 [illegible] 敬斎女
夢の墨こくれ[illegible]ねし初春哉 仝 金羅　世の中に浮に極の浮情哉 仝 月仙
夢や鶯の殊更夢の艶 仝 古笠　答うぐさや人素る梅の影 仝 蓼松女
夢の夢とや鶯と鳴ぶ 仝 景仙　素直にと人を寄る梅花 仝 芳蘭女

おぼつかなき春よ時雨 尾張 羽海
梅を待たつや風の氷り日和 羽後 嵯風
名をや世を忘れまさる人の心 仝上
さや夏の口を洗こきて時雨 仝 弄山
吹のたゝ〳〵たる柳こうふ 仝 月静

○

巍々高館最超倫。教育雖殊共入神。日本無雙傭智者。西洋第一聘才人。法醫文藝駸々進。理化工科的々振。大学昭明如旭日。全邦遍沐德華春。 編者

何世に雲も雲も大昔の
夢の夢を思ふ春かりけり 編者
先祖のまゝ鶯や冬の梅 仝上

人さゝる　宣に　末や仲は
夏ゝ　名を　あふぶ
されて　揚る水　ふゝや
さゝの月　花よ　春の面
編者　編者　編者

無類
名鬱聚
大家。慇懃
教導固湛嘉。
巍々雄閣迎紅
旭。蠢々高堂鬼翠
霞。法學醫方爭智力。
文科工業闘才華。苦辛
營雪研磨氣。散作人間衆
藝花。 編者

世の人の耳偽つる郭公
名をは世井に修深ゝ里 編者
答ふるとも程者まも上梅ゝ者ハ
夢ひの人のをゝくまゝ里 仝上

帝国博物館

千年の
ものゝ
まもり
いかれ
ぬけ
わこゝろの
ゆれ
探ねて
什里

東京 井上正直

いろも香も
袖ふそ
稱る
それ
ふるの

こゝ
まもる
まもる
たゝしは

東京 吉川姓子

公園芳樹幾年栽。橋畔榜牌
招客來。博物館還觀古會。東台
山上共花開。　東京　槙村龍山

羅列閲來
奥盡珍。人
閲至寶孰
爲真。丹刷
碧璞知多
山。只心烏
金推巨寛。
東京　伊藤橘庵

温知徴實事非難。通貫三才仔細
看。尚武自傳神代佩。垂旅誰戴
異朝冠。磐梯噴石鑒邦伯。貝
葉遺經想錫蘭。更有欣然
表瞻仰。和鳴如聽鳳凰
鑾。　東京　伊藤橘庵

今様

東京　福羽美静

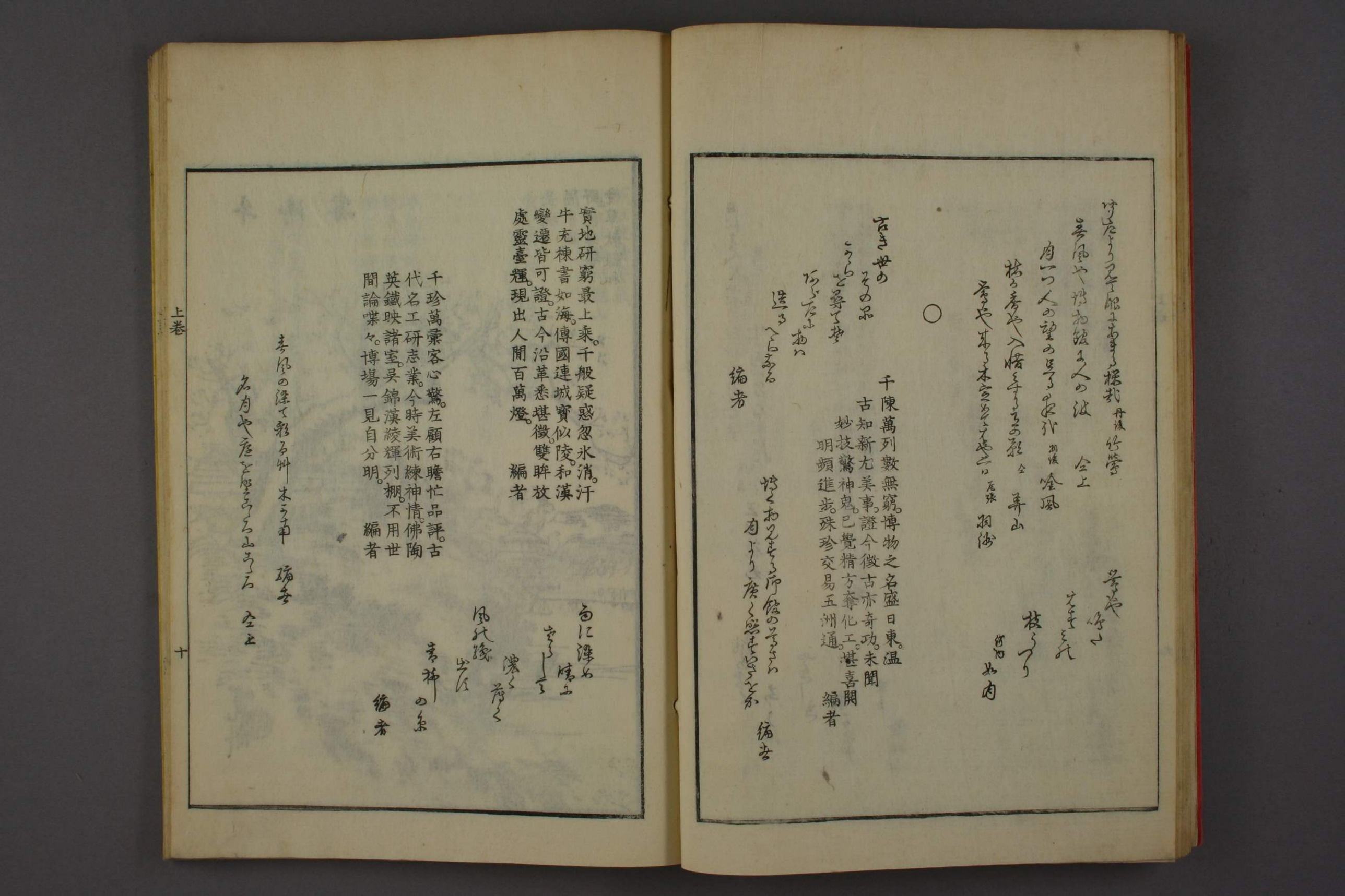
播磨　田辺千秋

日に〻人〻英才の神の恵に
事のよりてる色に見えそめれ　東京　三田葆光

嘗見梵宮安樂郷。腥風一陣屬朱俵。
佛陀暗設方便術。使衆生遊博物場。　東京　大久保敢齋

仰想當年隔世如。寶坊六六劫灰餘。也
知万象諦觀境。博物館高衝大虚。
武藏　嵩古香

東京　茶松女



千陳萬列數無窮。博物之名盛日東。温
古知新尤美事。證今徵古亦奇功。未聞
妙技驚神鬼。已覺精方奪化工。甚喜開
明頻進步。殊珍交易五洲通。　編者

○

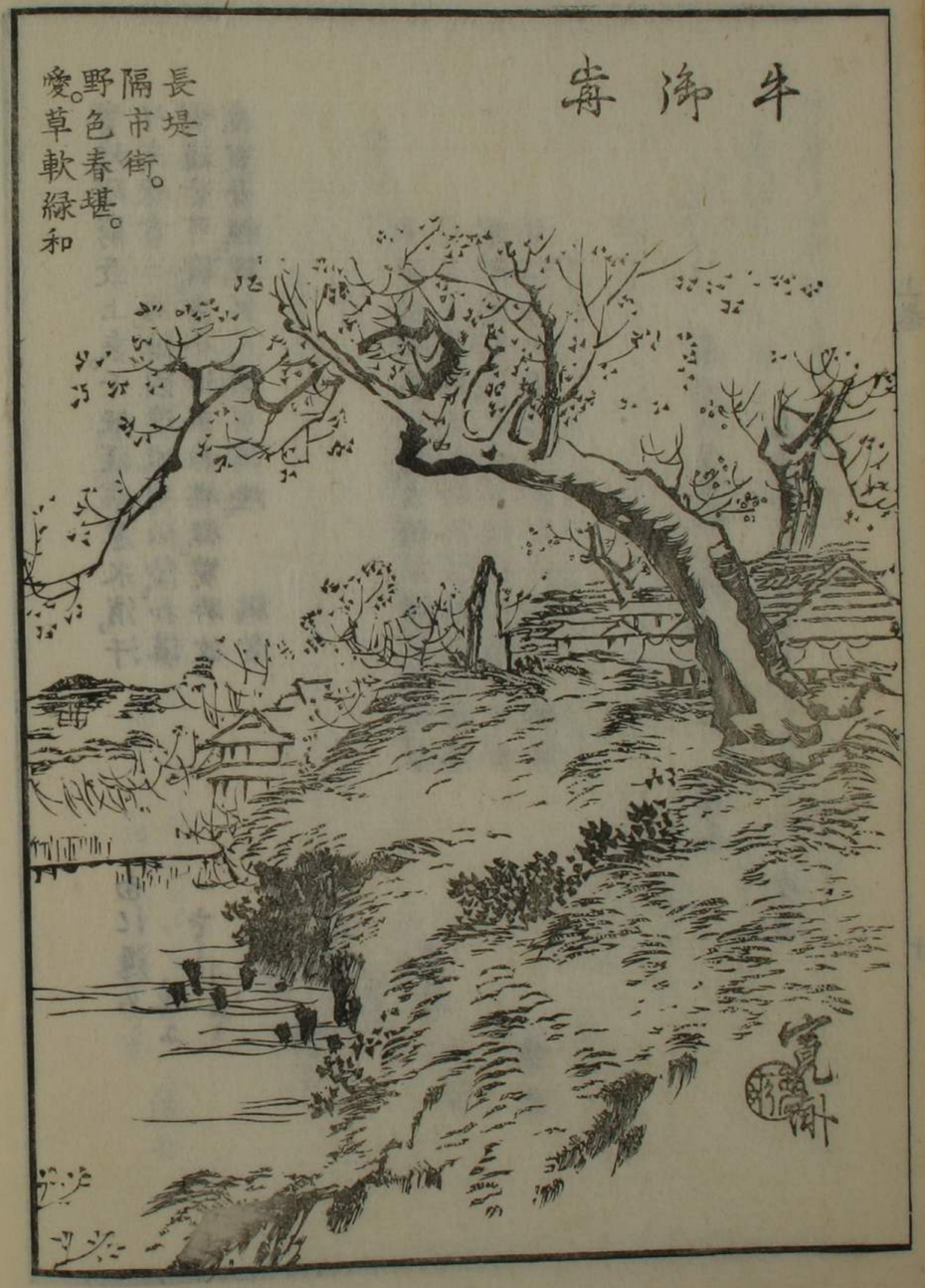
千陳萬列數無窮。博物之名盛日東。温
古知新尤美事。證今徵古亦奇功。未聞
妙技驚神鬼。已覺精方奪化工。甚喜開
明頻進步。殊珍交易五洲通。　編者

實地研窮最上乘。千般疑惑忽氷消。汗
牛充棟書如海。傳國連城寶似陵。和漢
變遷皆可證。古今沿革悉堪徵。雙眸放
處靈臺燿。現出人間百萬燈。　編者

千珍萬彙客心驚。左顧右瞻忙品評。古
代名工研志業。今時美術練神情。佛陶
英鐵映諸室。呉錦漢綾輝列棚。不用世
間論喋々。博場一見自分明。　編者

牛御寿

長堤
隔市街。
野色春堪
愛。草軟緑和



苔。畦腴黄著菜。
東京　槙村龍山

かけてましてうかゝかめてうゝ
うしはまへの花のうゝけさ
東京　福羽美静

牛王祠畔雪晴時。幾向江天叫
絶奇。休笑蹣跚勞醉脚。一杯爲
酹古翁碑。　東京　伊藤橘庵

わかゝのみうりはうゝれはきあうゝ
風おもてこ陸夏ゝ志ゝれ和
東京　三田葆光

悟みつる梅も雪とふりに咲り　牛の庵名れ妻の夕風　越後　戸田進

切籠屋てかさ〻ぐ角を悟さけり　牛の庵茶に涼む釋迦人　仝上

語て去る人の迹も白び咲り　朱れ白菊の梅の生業り　仝上

遊人買醉泛晴川。潮落晩來暫停舩。忽有奇聲驚嬾夢。數番烟火燭南天。　上總　井上聚芳

雪つもれ〻都とりに降とに　東京　金羅
ふるせ雪雪櫂の音の菊　仝　崑仙
夕梅舟い汀をとゝのれ咲り　仝　素石
非御に咲き渡りまて仝の雪　仝　月麦
冷さも忘まて踏ぬ雪の釣　仝　古笠
梅咲て夢婦よせる庵の系　仝　梅舟

○

三代のいつと〻みふも勝るの船　えやみを梅〻非の恵に　編者

枕橋明月繫扁舟。兩岸清風拂客愁。又見遊人極豪興。管絃聲湧尤高樓。　上總　井上聚芳

駕籠を乗て咲る雪の釣　相模　嵯風
雀より先ふ変ある雪見の船　仝　月靜

松ふ船を浮〻て見る梅の雨　仝上
猿む雪にいよ〻寒し松の色　仝上

人生庇蔭添祺福。牛社威靈逐疫邪。八百萬神難可算。御弗稱號最榮華。　編者

魏然占地墨河衢。南接三圍北白鬚。救世慈恩千古耀。逐邪靈績萬年濡。唯能醉去花開境。誰復吟來月出途。神社回頭多減貴。御弗稱號獨優殊。　編者

世を松ひ社を安むる庵恵伐
多代に八千代に作るさ〻ぬや　編去

さらてたに非の庵と座のるきに
庵前の松い茂ふりに咲り　仝上

安置威靈素盞神。鈴聲不絶四時新。毫無爛漫傷花客。苛有嬋娟嘯月人。蠹々松杉催靜意。巍々堂殿絶煩塵。牛王驗力驅邪疫。現出回生起死春。　編者

白髭神社

花さけば花もろかきちらしむれて
子代をたのむらひけのもり
東京　福羽美静

先候蛙鳴聞不喧。花陰終日澹沱昏。
風光第一堪描處。簇々陶煙今戸村。
東京　楫取畊堂

晴
色氤
氤風意
柔。春江何
處繫扁舟。白
鬚祠畔花如雪。
青柳橋邊水似油。
東京　槙村龍山

夕晴雲白くうつる
人の語る白髭の宮
丹後　牧野作成

月の光
たてたて
おりつき
花を
春の月
牧野作成

長堤春色錦裝襟。況到白鬚仙
客蹤。踏破香雲三十里。祠邊積
翠好傳節。
東京　船曳卓堂

老松成鬱水之涯。道祖神風萬古吹。回顧曾遊如一夢。白頭重謁白鬚祠。　東京　伊藤橘庵

玉髮の杜は梢に立る雲を　西京　李家隆房

神もあそれとみるふらもん

彩雲芳霧失西東。雪艶玻璃一望中。日暮鳥啼春欲老。白鬚祠畔落花風。　東京　大久保敢齋

玉垣の苔は　いとふ代の秋を経りて白髮は

みどりもえ　神の杜年有い深ふ人

ふかゐ　戸田逸

雲ゐ　神は宮居ふる玉髮の杜　京　最賀園子

仕至

玉髮の神は　越後　戸田逸

玉髮の宮　詩つる人をとゝむる風

山城　木村昇高　苔の髮とけつらやあらふらん

柳はいとゝ春風をなゝ　播磨　田原千秋

玉髮の神は御系ふ中とうけて　大和　東友秋

猶りに年りふゝ春の初雪　山城　宮本孝彦

雪ふれい出る玉髮は　雪積不知年

神の御名さく御ゝ向けさ　ものゝ年

神さびていつの代よりか玉髮は　いとゝかこし

老り残てふに有のうけふる　ふる髮の宮

山城　小河好優

妻の白は

ふるゝと

ふる髮の

神の

やゝふる

雪深

山城　宮本孝彦

祈ふひ玉人この神垣の玉髮を　山城　豊村端敬

おのゝかゝらに積る毛まて

一夜庭深あまそ立妻ふ玉髮の　全上

神垣ふそつゝるゆきこの郷

玉髮の神は御園に降雪ハ　全上　小河好優

庄綾威と共に老り増らん

花と見る　有見この形二人左向小名こうり　五来　永樵

杖たゞぬまくそれはこゝ見えしき　仝　詩竹

雲水あゝに　嚬の跡やまこゝろ　仝　呉仙

ふるさと　ふたつ人さそ〳〵に見る花の前　仝　梅舟

そゝぐて　端居して初雲ほのぬしと物り　仝　素遊

神の　雲もその名き桜花ぞ山屋我　武州　良大

やしろ　初雲を踏くはゝるや俳使　西京　猫雄

つもる　又ふる人自に見らるゝ今宵我　相州　嗟風

玉砂　初雲の陰て玉蔵ふ秋的こう弟　仝上

山城　澤井正作　聖百代花も苔そとい小紀源こう系　仝　有静

○

清名不啻白鬚神。福壽隆昌逐日新。墨水澄々明月夕。隅塘爛々艶櫻晨。蟠松露滴渾無俗。深殿雲籠自有真。貴賤繽紛虔禱遍。鈴聲不絶四時春。　編者

浄風や辛仁　編吉

雲を拝之人絶

名月や空より

人の狗平泣む　仝上

ゆかけてたひそ

ふゝ〜ふゝ鶯の

非れてみまくの　編吉

いとまゝ花

松杉擁路絶纖塵。高宇衝天結構新。涼氣更無三伏熱。繁華自有四時春。北連梅若柳邊墓。西接業平鷗畔津。社在岐塗便利地。白鬚人賽白鬚神。　編者

堤邊占地白鬚神。前有三圍後塚人。鈴音鏘々澄氣濁。松聲颯々絶心塵。清風朗月秋晴夕。梅雪櫻雲春雨晨。平坦最欣堤路便。賽賓連續四時春。　編者

夕に経の音

たゝ忍ぶ髪は

松のもとゝ

神舞ふらん　仝上

偶田川絶ゆきかゝ日ゝすゝら

ふゝ鶯出の出人を絶せ忍　編吉

勝地開基絶
垢塵。明王光
燈逐時新。祇
應利益分平
等。白眼休看
莊子人。

東京 伊藤福庵

此臺高聳冠都
下。古刹千尋摩
碧空。仰見降魔
不動佛。威恩東
在劔繩中。

東京 大久保敢齋

遠山や霞かたる山のかげ　左玉　吳仙

春の風つひに日暮しなりにけり　仝　千畝

行見てもなほ慰む路の雪　仝　月彦

町にある坂に苦しむ蹴鞠　仝　尋香

靜さは秋の花かと今日の月　仝　守靜

霧こめてかすみよりなほ雲の影　仝　古笙

木の芽吹き鶯の音の夢　仝　素石

さほ姫のたるみ浮やゆ初霞　仝　素水

軒先や清雪かゝる海の松　西京　猶雄

月にかき淀世や春の雪ゝき　長門　看雨

かゝみゝ

鼻の先ある梅木まて　相模　啥風

ゆ〻しさは

いと人も有と青　仝　月靜

○

頃に非ル

佛ル

ま〻

自然の壹

紙ホ什至

編者

不動名高目白臺。京城美景眼前開。賽人雲集競前後。韻士鳥群爭去來。神社威靈添信德。佛堂壯麗絶塵埃。讚詩此境尤鮮少。今日詞章始自隗。　編者

自然ある壹ホ　ゝ　ゝ

四方を彩る春霞の郷　仝　上

不動名聲宛似雷。賽人何厭路崔嵬。人工第一神明殿。天造無雙目白臺。秀嶺四方雲外峙。画街全幅眼前開。梅櫻別有風流在。雅客新陳去又來。　編者

自然の友を

集ホて雪見こゝ初　碩　去

名を

四方を見ル

自然壹　仝　上

風光秀美白臺巔。瑞色氤氳市井煙。杜宇今過殘月曉。黃鸝昨囀夕陽天。樹邊嘗謄千般想。石上澄心一味禪。不動明王人所貴。長兼目黑勢齊肩。　編者

蒲田之梅

叙影衣香趁軟塵。途逢西客混遊人。抽毫欲問梅花節。庾嶺如何此地春。　東京　楫取畊堂

きさつ之
老木
ふる木れ
梅木
ふる
せの
松も
まつ
つゝけさ
五条
福羽美静

梅園幾畝海濱莊。數朶花開報孟陽。處士山中存故態。美人林下倚新粧。烟含紅蠟帶邊色。風動黃金蕋上香。來賞江南佳絶景。詩篇拾得滿奚囊。　東京　松平龍峯

年ごとに行かう人多くなりに春り
蒲田のさやく梅のさけきに　五条　水野忠弘

細雨輕寒未放晴。退朝携手出江城。履痕不厭泥三寸。人在梅花花底行。　東京　水野大路

あかるみる梅う蒲田の花ゝ香を
袖につゝみて京にとゝにせん　仝　小沼原直矢

芳や何さまさやうに在せて星　仝　待竹

本のもとをたちてそれて枝をぐまを〻
袖をそまれる梅のかをりハ　東京　三田森光

氷融新漲洗晴沙。從是城南好物華。
五々三々人似織。相逢皆道訪梅花。　仝　槙村龍山

膏雨始成晴。忽看春氣候。村翁喜麥
肥。詩客憐梅瘦。　仝　上

おのつから　玉京　景賀園子
園はかゆきて
雲かな
蒲田の里の
梅は白ひて

咲みつる園生は梅の花乙と　仝　上
蒲田の里につとゝ人もろ人

春信報來傳市城。鞭絲帽影日狂爭。
賞心別在喧囂外。好伴佳人步月明。　東京　伊藤橘庵

ト算子
驛外捲芳塵。林下迷香霧。寶馬彫車
傲興人。誰會羅浮趣　玉骨亂橫斜。
影落微醺處。粉艶爭春笑語嬌。恐被
花神妒。　仝　上

風香四面隔凡緣。來借胡牀氣欲仙。
不識當初誰種玉。蒲田今日是藍田。　武藏　嵩古香

梅のさとゝまろ〻蒲田は庭すのを
春ぞ〻ちたるゝ地こ梅をもれ　山城　出村端敬

かをむ花の園に蒲田の春しるハ
おりをりけ〻ぬ軒の梅ゝ香　仝　上

幾樹梅花不染塵。香風滿地十分春。
水邊自有清幽趣。又好黃昏月一輪。　山城　西川義延

水頭春色幾梅園。香氣入杯吟意存。
不識花前人已去。一痕新月照殘樽。　仝　上

十歩ほゝ奥まる庵や梅の花　玉京　金羅
梅ゝ香や庭ゝ設けし菊壺　仝　尋香
譲りをゝ折ゝ原石平梅の市　仝　素石
とゝ毎に匂ゝ白ひや梅の花　仝　芳雲
梅や春近ゝて迎ゝれも　仝　石丈
ちゝ〻と月も白ゝ梅の市　仝　松湖
されいまゝ梅に寄ゝ思ゝ乙武　仝　上
月の夜や花さゝきゝ〻み銀世界　長門　看雨
人春の深ゝ夜日ゝ梅の花　戎彩　良太
月ゝ〻梅ハ鑑の青ゝ〻さ　仝　朴山
梅ゝ〻ぶ夜雲ゝ〻ゝ梅の香　上野　乙鄰
村ゝ杖ゝ〻ゝ〻ゝ梅の道　羽後　金風
我慢ゝ〻ゝ〻ゝ梅乙我　仝　月靜
梅の〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ　山城　永原

春風到處竟無私。早已多情柳掃眉。珍怪石叢裝砌土。金銀魚鼈躍園池。梅花似雪埋庭發。遊客如雲捲地馳。忽見肅然生敬意。巍々安置一神祠。　編者

梅の香のむせかへりに蓋こう郷　仝

沈むも縫の香たかりにて　上

廿四番風獨占魁。蒲田無樹不芳梅。才人提挈發吟去。俊妓徵招含笑來。庾嶺林間晴雪搨。羅浮山上白雲臺。横斜滿地鋪疎影。清快難忘萬朶開。　仝上

ひとこゝろの蒲田の里れ梅中ゐに　仝

きこひまりかみき夢の夢　上

自然に梅も恥ん京の梅　編者

思ひ思ふ外の香りや梅の香　仝上

たまゝ〜ゐハ香まつかまて梅の花　仝上

梅樹蒲田最顯名。滿園如雪有餘清。古今奇木各居弟。和漢珍花皆喚兄。麝氣龍涎香世界。氷姿玉態水晶城。美人含笑頻來去。也是羅浮醉夢情。　仝上

なうちは雲と

又孫上たかりにて

蒲田の　仝

梅は春の　名ま〜　上

春風に梅の花　丹蓉

やつと殘雪殘金むも　金羅

ちらちられ山に霧の棚引て　蓉

炉端によりてかうる蓉　羅

梅樹を背ひ山〜も自然蓉　蓉

角力太鼓の遠響きもる　羅

涼霧に出り袖つ宵ゆる　蓉

女人達うう生の嘆〜き　羅

直先きまる鯛を美も玉祝う　蓉

美柿の葉る圓巻平拝　羅

面ゆう結張もあるき草の新　蓉

生牛肉　好を待〜蓉　羅

きう〜と酒昇たる者の色　蓉

柿を剥〜う庭丁の結　羅

新酒を煮てもやアを破か減　蓉

うう〜と解るるの裔　羅

吹上て中ゆへらん岩の吉　蓉

山茶ハ一寸五ゆるき場所　羅

二月

孝先い蓋も加〜ても伊勢語る　蓉

間ふを遠れい藝をもる太　羅

器を拾ふも孫のた〜叫う　蓉

芸居いつち見よきもき習　羅

付注の書きうに流れる帳茶深　蓉

狭く茶用なを納の座　羅

清西と羅羽い和注者りあ之　蓉

翔ふ久岐羅の書をもる新　羅

茶作のさうとせし殘きふう　蓉

卑弥　掘きも絶て久〜き　羅

世を遠て静に拝ふ自の窓　蓉

鶯ふたの鶯刻まて偉　羅

三月

思ひ出すやうにるうと捆一茶　蓉

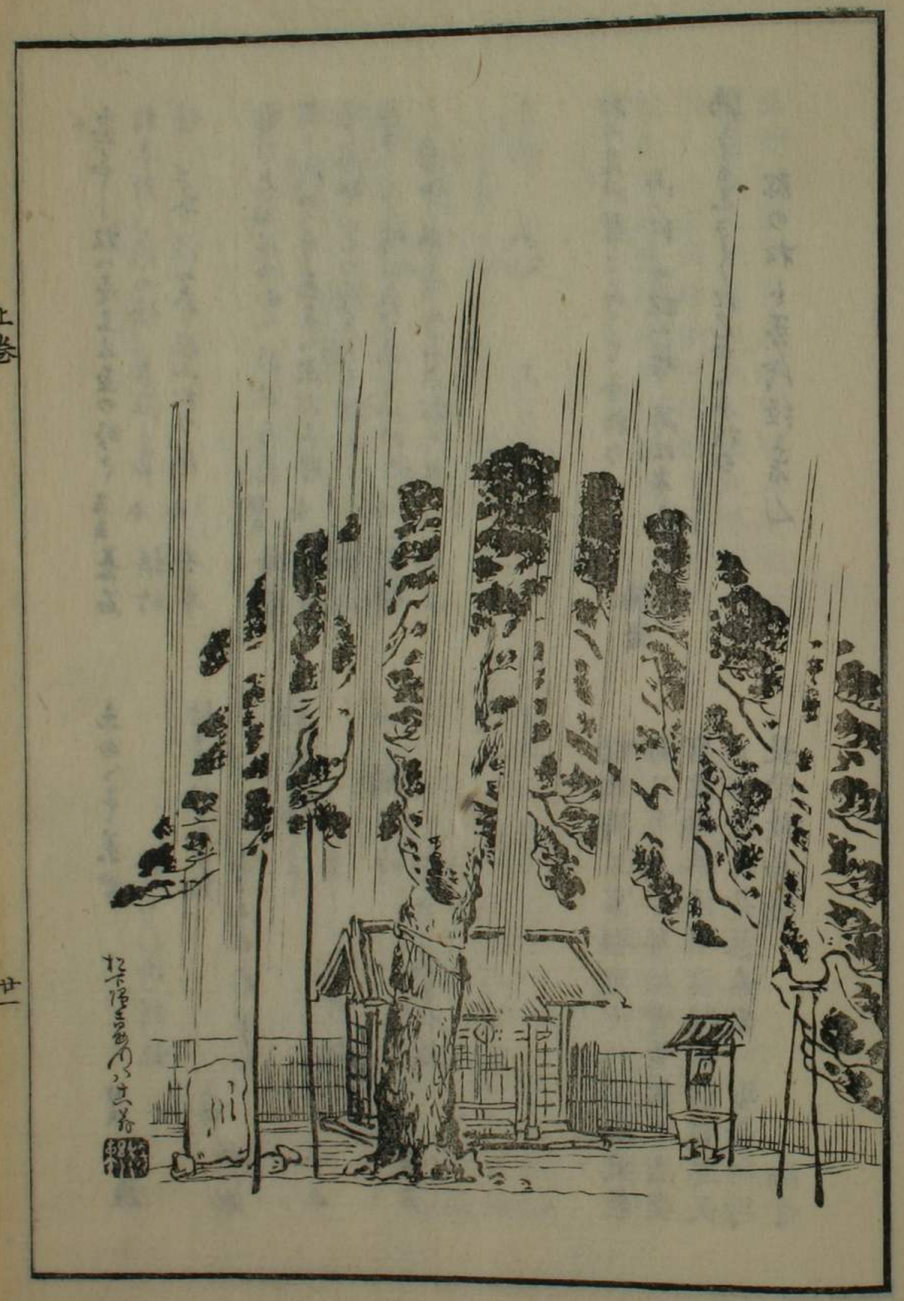
四十座奥蓋の出仕と考る　羅

孝れる実上世の市の云ふう　蓉

却らう鱗れ走る鯉網　羅

嗜切〜立に鶯舞上花蓋う　蓉

尻夢遠きを新の縫　羅



御行之松

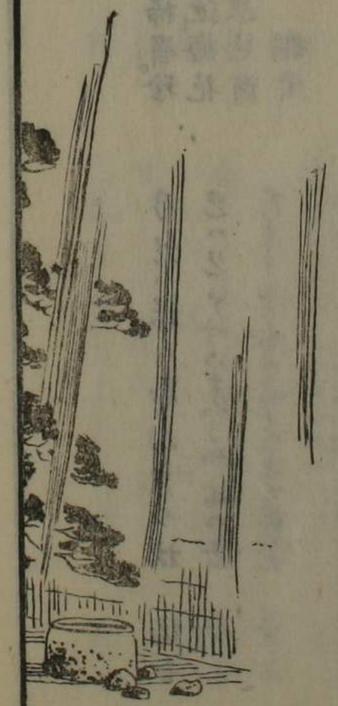
名もゆかしき松の根岸の里人い　玉泉　井之正直

ときにふとせれ夢やきくらん

おい松の木の百とをかゆ之つゝ　玉泉

ふるもまたいはすもあらまし　松平慶永

落日寒鴉山外
邨。曳笻來聽碧
潺湲。徘徊不要
尋遺跡。一樹蒼
鱗古色存。
東京　伊藤橘庵



雪ふる松の青さと苔の白さ　素石
松ふく風の音もまた社の前　仝　侍竹
音もさやかに法の夢覚ん松の風　仝　青芳

降つもる白雪にも劣らぬ松の色　羽後　絵風
翠の代やそなへ色ふく照る松の角　仝　弄山
音風や光つ作き見る梢より　仝上
白さ雪の雪晴さきやうの山の角　仝　月静
雪角や風吉もまき松の上　仝上

○

村の名は栗とあつて栗の
市行の松は神舞にそう　編者
滴りもさそうに見る栗の
隙の松を栗代経まち人　仝上

色かへぬ栗世
降らん市行松　越後　月雅
竹まに色ふる
雪のはりまち　山城　柳色
枯枝の栗して
まし雪の松　仝上
ふり綾る雪
いつそやはり松　仝上

従教街上客驅車。十八公邊風景
餘。已有三冬存操實。更無千歳受
官虛。蟠根匝地雲陰密。偃蓋遮天
日影疎。非是暴秦爲　聖帝。御行
長受最嘉譽。　編者

無雙松樹秀容轟。逢著賢王受寵榮。
鬱葉蔽天陰黯淡。老松蟠地勢崢嶸。
居人今古成祥夢。過客朝宵得好情。
翠色千年霜雪操。御行絶勝大夫名。
仝　上

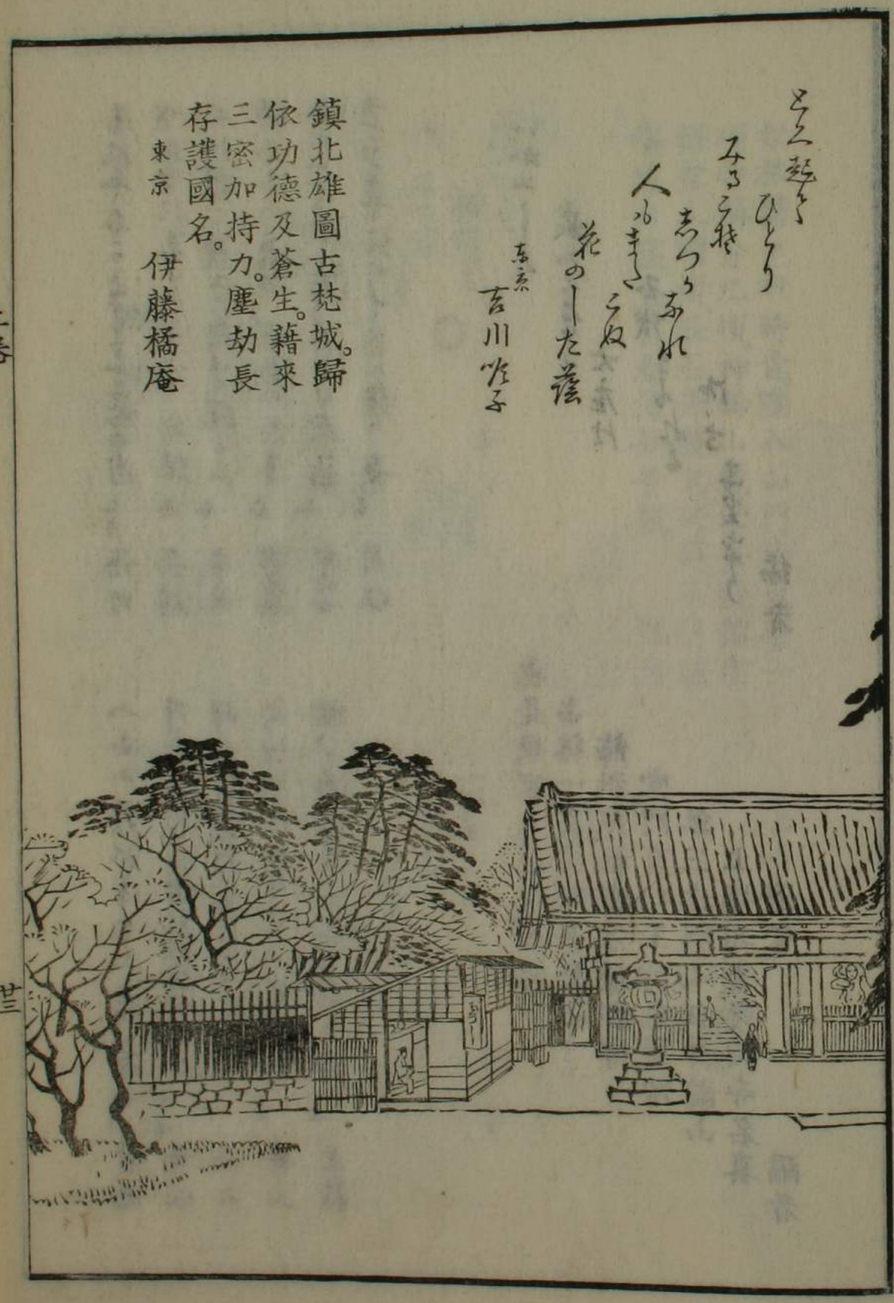
春はるの年　色のへの数
春ふるる　松や
風情や　ふるせた
まつの雪　花ちさき
編者　仝上

小山ふる雪ふる雪ふる色松の　仝
作りけ　上
まつ年　降まる雪雪

縱横如織去來車。十八公邊日出初。
偃蓋參天形巨大。蟠根匝地勢紆餘。
朝々霞曳金杉里。暮々露飛根岸廬。
回首鶴亀非壽福。御行松樹占仙譽。
仝　上

護國寺

雪舟



東京　吉川雪子

鎮北雄圖古梵城。歸依功德及蒼生。藉來三密加持力。塵劫長存護國名。

東京　伊藤橘庵

春風やあつうさまなる松の角　素堂　詩竹

咲数百に耳うたがふ　功拙　全　素遊

人に接く鐘ふこゝろ揺つる　全　角度

護国寺の森や　春羽の併　全　樵花安

面のけて芝工大ふき日数　全　然者安

芝ちるや法れ蓮華の経の音　全　月仙

○

いかめしく

嶽めくまつる　太座仕

玉殿まもる　市古　赤星市

編者

八おの鐘ひ吉句上花　素　青　看面

浮めて赤つ子首に珠数や姫搖　羽後　嗟風

俤西に生かけ立て壹之二の那　全上

丈云のまゝ半分上壹石寺　全　弄山

搖ひて花咲ふ反ふり風の塗　全　月静

也是東京大道場天然

占得一高岡珍奇梵石

飾祇苑秘密法燈輝佛

堂門有四王防鬼襲僧

無三毒制人狂神齡山

上禱邦壽護國寺名真

適當　編者

松林鬱々四時青纔入山門德氣馨一

項寺稱分九項神齡山號表長齡櫻雲

梅雪人瞻樹怪石奇巖鬼哭庭不退道

場追日盛晝宵聲湧妙音經　編者

誰ゝ古上

名ゝ修色ゝと

庭之起て

國ふる寺へ

ぜつ年ふる　編者

空の雪　雪と出て

梅引し　くゝ残

木の百　ふり

芝ふる　清りふ

空ふる　芝足

ふり　ふ南

そゝき

赤星　全上

編者

護國

名稱是

甲科高堂

矗々半天摩

寺無一俗引良

衲門有四王降惡

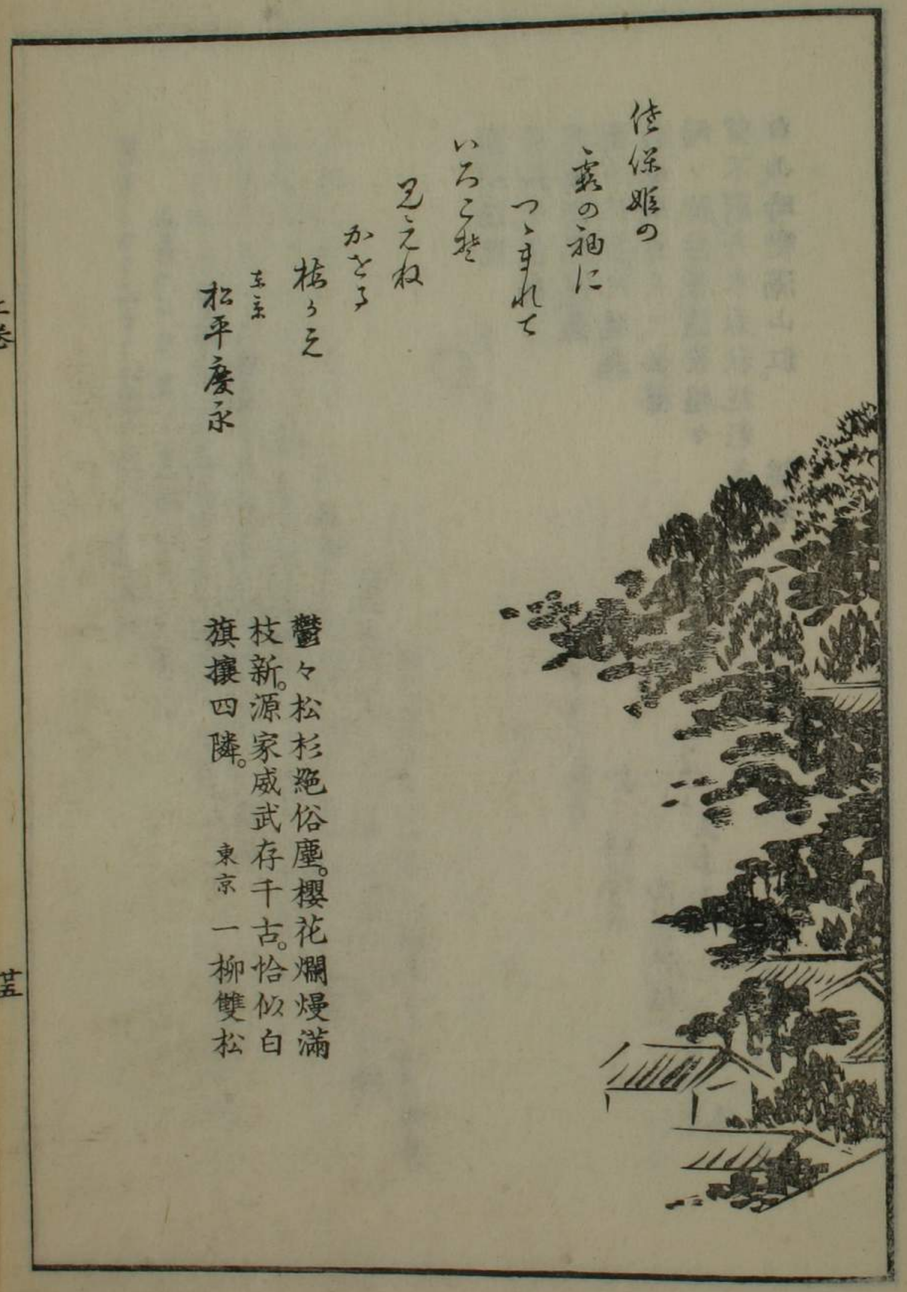
魔楓錦柳絲凡客少

櫻雲梅雪妙詩多觀音

經誦木魚響郎佛郎身天

地和　全上

向山神社



佳保姫の
袁の袖に
つゝまれて
いろゝ髪
見えぬ
かをる
梅ゝ之
玉泉
松平慶永

鬱々松杉絶俗塵。櫻花爛熳滿
枝新。源家威武存千古。恰似白
旗攘四隣。　東京　一柳雙松

兄弟[illegible]の梅の花一つ　業水
[illegible]門日有遲遲[illegible]待つ日　仝　古星
星霜にして新居しくふの月　仝　吳仙
[illegible]色香はまつ[illegible]梅の花　仝　石丈
人[illegible]にひとりさいひつゝ[illegible]月の梅　仝　素遊
ひとりさいひつゝ[illegible]やゝ雪の山　仝　孝朗
あの奥も[illegible]あるまゝ[illegible]梅の花　羽後　吟風

○

高岡現出
市街中。表裏
昇騰路兩通。蠧
蠧丘陵呈地勝。巍
巍堂殿奪天工。鈴聲
續々聽無厭。擔景超々
望不窮。卉木春秋施彩色。
白山時變滿山紅。　編者

さらしてたて
非垣清き
市社伐
いとゝ
生ふる
稜ふ雪の形　編者

梅花候
[illegible]
[illegible]の
社伐
五代
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]　編者

神社礫川誰競名。新陳詣客勢相爭。巍
巍宮殿添威信。穆々祠堂表欵誠。松靄
柳煙青上下。櫻雲梅雪白縱横。此間別
自有幽趣。時聽暮鵑還曉鶯。　編者

白山の[illegible]
白[illegible]稜ふ雪　編者

非垣伐園上　仝
[illegible]　上
八雲の[illegible]

占得天然一大岡。白山神社構華堂。巳
無賽客減錢貨。更有詣人增黙香。柳色
氤氳青靄境。櫻花爛漫白雲鄉。善男善
女如歸市。名並加州千歲芳。　編者

傳通院

世の人代
きるる
のみちは
善こゝろ
かくるも
きれの

貫業

こゝろ
ふりたる
東京 吉川順子

香城擁翠滿庭清。惟
樹幽林夕日傾。應是高
僧時入定。群蛙流水寂無
聲。 東京 伊藤橘庵

かくさぬ
ふやそ
なる花を
見るらん
東京 三田葆光

月にして裏表ある櫻ゝ形玉京異仙
日の釣れ蹄にふゝれ花の雲　仝　尋香
面風もよし日もよし遅櫻　仝　青宜
初霞低山ゝ霞かゝる　仝　素丘
かとたい幹にとゝまる櫻哉　仝　千鶴
待またる花も七ちれ惜世哉　仝　月仙

○

さくらゝゝ
はきゝゝそあと
ゝゝまてに
咲乱またる
糸きゝらゝ形
編者

天然地設礫川岡。三百年存一道場。經韻常轟深奥院。鐘聲時吼小層堂。澤藏祠益究隆盛。大黒殿彌添熾昌。名寺名櫻無甲乙。艶雲鄉又白雲鄉。　編者

梵城高聳礫川中。鐘韻經聲逐曉風。晴雨奇容朝夕異。松杉秀氣古今同。洗心精舍開誠實。念佛靈場悟色空。別有專名櫻樹在。傳通院裏最傳通。　編者

仏へけゝ
墨の素色
野ゝ中ゝ
ゝゝ
ゝゝ
花の春のよき
編者

高堂矗々半天衝。萬歲常謠百尺松。坊主看經凌九夏。寺僧勤行耐三冬。真如月照傳通院。念佛花開淨土宗。別有名櫻轟世上。春時爛熳艶雲濃。　編者

洲崎神社

拾紫收紅日影移。江干春暖水如脂。忽看羅蓋迎天女。萬項煙霞潮到時。

東京　伊藤橘庵

うちかすむそさ戈れ巷のーほひこえ
ふをやらぬ人ぞかるらん

東京　福羽美静

秋浦退潮遥。漁舟膠暮港。兒童呼不應。沙鷺猶撩蚌。

東京　槙村龍山

七十三度 沖岳

法ちくき
碑の
さき戈不
彩うつす
自ハ
怪世れ
さこう
ちう
ちつ
東京　井上正直

酒旗風外日將斜。神女祠邊堪駐車。潮退洲沙十里遠。捕魚人去小於鴉。　周防　下海門

浦雲遠映夕陽紅。総水房山一望中。波穩東京灣十里。萬舟吹送滿帆風。　上総　井上聚芳

社頭春賽人連。柳緑花紅三月天。海潮千多蛸蛤。神靈餘德及何邊。　仝上

砂に寄せ波に沈まり夕霞　素石

汐先に祇切まとる霞の有　仝　金羅

夕汐とふるや霞もひと巻き　仝　千畝

漁火の遠ゝもむやゝ消れ焼　仝　詩竹

見こうゝ海苔の世ふり夏の月　仝　沸居

○

磯こゆる汐風さむみ群たちて　大和　芝　菖忠

まゝまゝの宮にゝゝ侍ふり

いつゝより吹ふ風ふきゝ佐の　仝　上司延佐

沙時の宮に直上洋一望

邦の月佐沙嶋の汐や引ゝ　山城　业村端敬

新遠さかるゝまのいぎゝ生

汐ひ汐ハ神のありその海の嶋に

かゝ一ゝ見ゝ桜山作ゝ

仝　上

寄水つひ　仝

やむや　一生佐

一日霞む　紀ゝ

流　友の月

相模　吟風　相模　月静

龍の宮

ふゝこゝと里ふまて

汐平ふまる

沙嶋演の郷　編者

洲嶋住景四時新。暮雨朝晴濃淡頻。巳有娼樓成盛富。更無酒肆屬衰貧。潮乾男女驅文蛤。雨瀑翁童釣錦鱗。時世變遷如一夢。辯天堂化島姫神。　仝上

知否洲嶋神社奇。雨晴濃淡雨相宜。名家豈啻揮佳筆。才子還能賦麗詞。櫻樹雲邊形重處。柳條風裏影輕時。愛看濱海如平地。人逐乾潮拾蛤蜊。　編者

夏の苔もゝみ

こゝゝに人の来ゝ　仝

沙嶋のやゝゝ

ふきはひふゝり　上

敷ふゝゝ

ふゝゝ

沙時の宿れ

他出けゝきに　仝

上

佐京の月見ゝに入ゝ地　仝上

龍の宮ふき里ひゝ汐干形　仝上

石ゝゝ佐の磯にれの琴　仝上

梅若塚

ちりそて
梅はなちを
きてとれハ
つかの
柳千
春面そ
ふる

東京　松浦詮

春水溶々流正漲。午陰漠漠暖如蒸。老花未謝新花發。添得櫻雲白幾層。

東京　槙村龍山

むろの日にとひてゝ梅ゝ塚は
秋はむしさへまさるれあり

仝　福羽美静

輕風度水々烟遮。柳影糢糊棲暮鴉。冷笛一聲誰弔古。梅兒塚畔落梅花。

仝　伊藤橘庵

すみた川つゝみ
遠ゝも
きたるゝ
梅ゝ塚の
雲子
こゝむとて

東京　猪久ゝ

きみたゝ川つゝみの柳うゝ茂て
夕日傳き秋風の吹ゝ

仝　伊東ゝ

十里長堤何用車。行臻社畔欲昏鴉。社名全以屬公子。不訪櫻花訪梅花。　下総　石井頼水

玉垣を花のあらしと宮ぬてや　山城　藤井甚平
のとかにかける風そ匂くる

塚前一弔一低徊。落絮風翻古碧苔。遺憾千春因底事。芳魂託柳不依梅。　武蔵　嵩古香

孤墳一片墨江邊。疎雨淡烟思往年。梅若之梅粲如笑。却令遊子泣花前。　羽後　莊司稗龍

宮ゐ代角も見ぬ秋の風　素丸　古笠
むしゝ寸の虫に思ふや是の春　仝　仝止
秋風や鶏ふ多ゐの吹ちこの　仝　呉仙
虫佛やむしゝ〳〵のこゑ〳〵　仝　北渚
春てけ春ハふ春も所り花の中　仝　芳律
親ゑ〳〵ちるとふのよこ春の春　仝止
吹こゑ計る雲や白戸を上る春　仝　鶯女

ち秋や風に染も見ゆるさま　仝　湍屋
ちけにちゝと出ふや閑の市　仝　詩竹
待思人ゝ秋風の吹ちゝも　仝　石丈
多春ゝ出ふ春も吹ゝ思月歩　仝　素丸
鶏の声こゑきに似思ゆ白ゝ　仝　一清
梯造の橋ふ楚のまゝ吹白ゝ　要　箱雄

厂ゝ〳〵の夢見し月吹白我　尾張　羽洲
たゝかゝ神の森什一宝の夢　武蔵　朴山
眼に耳にちゝ〳〵さ秋や角と出　羽後　嗟風
時やそゝきこゝ楚ゝ梅ゝ和吹白　仝止
ふきこゝ楚非ゝゝふれ梅の花　仝　弄山
ゆゝ到て袁ゝ見ゝさ如芝ゝ形　仝　月静
梅芝れむゝ〳〵を招とすゝき我　越後　角雅
見ゝ見ゝ花ゝ踏ゝ名踏ゝ春　山城　小原

半の岩をゝけて降り吹白ゝ秋　良大
適にゝきゝゝゝゝ梯仲　耳蛍
屋敷ゝ計ゝゝれゝ春ゝゝ　大
俳ゝゝふゝ掃ゝ第ゝゝ　蛍
春ゝゝゝ見ゝゝゝゝ角の立　大
ゆゝかに秋を淡ゝふゝ　蛍
ウ　ゝの月ハ非ゝゝ佛ゝゝ　大
夏ゝれついゝ垣ゝ秋ゝ松　蛍
刈ゝゝゝの月ゝ垣ゝ高ゝ　大
さゝゝゝゝゝゝ俳ゝ　蛍
俳の春に春の間の夏ゝゝ　大
田ハ秋ゝゝに思む立ゝ年　蛍
俳ゝゝと秋ゝ長ゝゝゝ　大
平俳ゝゝゝゝ　蛍
垣秋に漆のゝのこゝゝ　大
ふ郭に飲ゝ俳ゝ蘇ゝ　蛍
ふゝゝ角ゝ麦ゝゝ　大
ゝゝハ拍ゝゝ俳ゝ　蛍

ヲオ　寂ゝこゝに節ゝにゝふゝ収麦の束　蛍
儲ゝゝゝゝゝゝ蕎ハ深ゝゝ　大
世の市ハゆゝき場所ゝ　蛍
行ゝゝ脚に蕨ゝ　大
一類ゝ恐ゝゝゝ思ゝ　蛍
ゝ逸のむゝし思ひゝ　大
砂瓦の形ゝゝ茶ゝ悟ゝふ　蛍
女の神のふゝゝゝ　大
釣橋とゝつゝゝゝに住ゝ　蛍
蒸栗お祝乙ゝ鬼れゝ　大
角星の光ゝゝ秋ゝ家刺　蛍
ほ乙のゝ白ゝ京ゝ菊ゝ菓　大
ヲウ　移きゝゝ文耳ゝ入ゝ遠携ゝ　蛍
たゝゝ踊りの宮性ゝゝ　大
古ハ拍ゝゝゝゝゝ　蛍
よゝ住ゝゝつゝゝゝ　大
名所花ゝゝゝゝゝ　蛍
ゆきゝゝ節のゝけゝ　大

○

從來四海弟還兄。追悼梅兒奈此情。玉腕舒時妍勝雪。花顏解處艶於櫻。尊卑頓悟無常死。都鄙長歎有限生。衰老區區空逝矣。如何萬歳唱童名。　編者

杖突て苔伏
男一枯若年　仝
蔦るた老の
法ふり者至　上

木母寺中庭樹荒。梅兒孤塚氣凄涼。人生萬事經三昧。塵世初終夢一場。月滿月虧知有變。花開花落悟無常。香烟不絶朝仍暮。千古今人幾斷腸。　仝上

おのつゝ古れ
都そ苔の扉　仝
袁堡に事絲　上
弼さ如一樹ふ形　仝
上

天死幻如漚。終
湖短命愁。木母
葉飄秋。追懷往
水流。　仝上

上卷終

○

從來四海弟還兄。追悼梅兒奈此情。玉腕舒時妍勝雪。花顏解處艶於櫻。尊卑頓悟無常死。都鄙長歎有限生。衰老區區空逝矣。如何萬歳唱童名。　編者

杖突て苦伏
思ひ出梅若年　仝
ふるさとの
法ある事を　上

木母寺中庭樹荒。梅兒孤塚氣凄涼。人生萬事經三昧。塵世初終夢一場。月滿月虧知有變。花開花落悟無常。香烟不絶朝仍暮。千古今人幾斷腸。　仝上

市垣の松や
付石ふるあり

老少同機人識不。此童夭死幻如漚。終無塵世長生喜。更有江湖短命愁。木母寺中花散夕。梅兒塚外葉飄秋。追懷往事隅田側。遺憾溶々逐水流。　仝上

おのつゝ古れ
都そ其の尾　仝
袁原に事絲　上
弥さ思探る形

續東京名勝畫詞上卷終